令和４年９月 22 日

相談室からのお手紙（９月号）

愛媛県立松山中央高等学校

今 84 歳のＴさんは当時７歳でした。とても明るく美しい月の夜、10 時半に突然空襲警報が鳴り響いたのだそうです。西の空から飛行機が飛んできているのがはっきり見えました。128 機もの B29 が松山の空に現れ、次々と焼夷弾を落としたのだそうです。７歳のＴさん、２歳の妹をおんぶした 10 歳のお姉さん、生まれて２ヶ月の妹を抱いたお母さんは、当時住んでいた東高近くの自宅から石手川まで必死で逃げました。２メートル間隔で落ちてくる焼夷弾に火柱が立ちます。周りの大人も子どもも、皆泣きながら走ったのだそうです。これが 1945 年終戦まであと少し７月 26 日の松山大空襲です。写真で見る一面焼け野原の松山平野。あれがたった一晩の出来事だったと私は初めて知りました。大好きだったお父さんは戦争に行ったまま亡くなり、「母はあの後どんなに苦労して４人も育ててくれたのか」とＴさんが話されました。

そして６月号でお話しした園長先生。先生は 20 歳の時に学徒出陣で戦争に行きました。そのことを園児たちにただ一度だけ、「先生はね、昔、中国で兵隊さんをしていたんだ。あのとき先生はね。･･･鬼だったんだよ」と、それだけ、お話されたそうです。また、息子さんが 10 代の時、友人たちが泊まりに来た夜に「戦争はね、本当にひどいものだよ。自分の目の前で、周りで、友達が死んでいくんだ。あんなことは、二度と、しちゃいけないんだ」とおっしゃったのだそうです。出兵した次の年に終戦。先生の 10～20 代、先生の心の内にどんな嵐があったでしょう。先生の経験、先生の悲しみ、苦しみ。私にはその嵐の大きさを想像することもできません。

先生は 97 歳で亡くなりました。今はもう、戦争の現実を身をもって知っている方々は少なくなっています。私たちは、当時子どもだった 80 代 90 代の方々のお話をしっかりと聞かなければいけない。そして、その大切なことを未来へ、責任を持って、つないでいかなければいけない。そう思うのです。

スクールライフアドバイザー　岡本　綾

★スクールライフアドバイザー来校予定日（１２：００～１８：００）

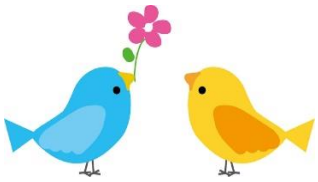
９月２０日（火）・２２日（木）・２７日（火）・２９日（木）

１０月　６日（木）・１１日（火）・１３日（木）・１８日（火）

★メールアドレス

kawamin_chuosoudansitu@school.esnet.ed.jp

★メールは２４時間いつでも受け付けています。返信はスクールライフアドバイザーが来校した時に行いますので、お待ちいただくことがあります。生徒の皆さんだけでなく、保護者の皆様も、気軽に利用してください。



「きょう、ちいさいめだかをあげます。」

知り合いの小学生から、手紙と一緒にめだかをもらったのは、昨年の秋。軽い気持ちで譲り受けた３匹のめだか達、水槽を準備して飼い始めたものの、生き物の飼育は想像よりも大変です。水族館やペットショップで見る美しい水槽は、毎日の管理が行き届いているから。我が家は、気づけば水槽は汚れ、水草についていた卵から生まれた貝がどんどん増えて、水槽の中は、めだかよりも貝を飼っているような状態になったこともありました。

ある日、お腹がぷっくり膨らんだめだかが泳いでいることに気づきました。「めだかの赤ちゃんが生まれたらいいのになぁ。」という思いが私の中に芽生えてきました。ところが、一向にめだかが生まれる気配はありません。よくよく聞いてみると、めだかをくれた小学生は、スポイトで小さな卵を別の水槽に移し、卵から赤ちゃんめだかを育てたというのです。

今年の夏休みには、産卵マットを水槽に入れ、毎日めだかを観察しました。小さな卵の粒を確認した私は、それを親めだかの隣の水槽に移しました。我が家に本当にめだかは誕生するのでしょうか。

10 日あまり経ち、何気なく水槽を見ていたら、本当に小さな小さな透明なものが泳いでいるのを発見。待ち望んでいためだかの赤ちゃんでした。目を凝らさないと見えなかったその姿は、日に日に大きくなり、体長５mm～１cm、６匹の赤ちゃんめだかが水槽を上に下に泳いでいます。気づけば、めだかをずっと眺め、癒される毎日です。

命が生まれるということは、神秘的なことだと感じます。授かった命が育まれ、成長していく姿に命の尊さを思います。世の中では、幼い子どもが犠牲になる事故や、中高生が生きることに悩むニュースを報じています。命の存在を当たり前に思わず、一人ひとりの命を大切にする世の中になりますように。

教育相談課　Ｙ